市長の決断を、市民も子どもも待っています。

少人数学級

小学3年ー6年での実施

少人数学級の機運が高まっています。すげの直子議員は、一般質問（9月14日）で「この機運を現実のものにするためにも、市が率先して少人数学級を」「子どもたちのサインや変化にしっかりこたえるとともに、感染予防の観点で、少人数学級は、もはや避けて通れない」と訴えました。

教室でソーシャルディスタンスが確保できない

子どもたちに、なんて答える

すげの議員「感染防止として、国や自治体あげて『ソーシャルディスタンスを』と新しい生活様式を推奨している。そのときに、子どもたちが学校生活の大半を過ごす教室で、必要な身体的距離が確保できない。子どもに『なぜ？』と問われたら、なんと答えるのか」

教育長「マスクの着用、手洗いの徹底、休み時間や登下校の接触の回避を説明しながら、自分自身の身を守る大切さも指導する」

すげの議員「それで子どもたちが納得できると思うか。少人数学級は、新しい生活様式のなかで、もはや必然だ。来年度には、小学3年生で実施し、順次学年を拡充すべきだ。国に先んじた市長の決断を、市民も子どもも待っている」

郡和子市長「人件費の増額、教室の増設など様々な課題を検討する必要がある。国の動きを的確にとらえ対応する」

「お金がかかる」

これほど情けない言い分はない。子どもを守る施策なのに

すげの議員「子どもたちを守る施策ができないことに、財政を持ち出すことほど情けないことはない。しかも本市は、2019年度決算で黒字38億円と、前年度から黒字額を5億円も増やしている。少人数学級を小学3年生に導入するために必要な予算は、人件費分で最大でも2億4600万円。本市の財政力からして十分可能だ」

【児童館児童クラブの過密解消】

すげの議員「密の解消という点では、放課後の子どもたちの居場所である児童館児童クラブの過密化も深刻だ。市民から『なぜこんなにすし詰めなのか』という指摘が絶えない。新しい生活様式のなか、これまでの基準でいいのか真剣な検討が必要だ」

就学援助基準の引き上げ

すげの議員「生活保護や就学援助をぎりぎりで超えている世帯の生活が死活的な状況になっている。本市の就学援助の基準額は、政令市で下から3番目。他都市だったら十分対象になるのに本市の低い基準によって制度の対象外とされ、そのうえ今年度からは、政令市トップクラスとなった給食費を負担しなければならない。市の施策が子育て世帯をどんどん窮地に追いやっている。来年度から基準額の引き上げを」

学校給食費の引き下げ、無償化

すげの議員「コロナ禍のただなか、懸命に子育てしている世帯への支援として、学校給食費の引き下げか、または数カ月でも無償化を実施したら、どれだけ励みになるか。これほど今にふさわしい支援はない」

特別教室にエアコン

すげの議員「図書室が暑くて大変など、切実な声が寄せられている。理科室や家庭科室など優先順位も考えながら特別教室へのエアコン設置に着手を」

日本共産党仙台市議団ニュース　No.778　2020年9月号　仙台市青葉区国分町3-7-1　仙台市役所内　☎214-8786　E-mail jcpsendai@nifty.com
市政へのご意見、ご要望をお寄せください。　ホームページ「日本共産党仙台市議団」もごらんください。

宮城県美術館の存続を

本館は、日本を代表する建築家、前川國男氏（故人）が設計したもの

村井県政が強引にすすめようとしてる宮城県美術館の移転計画。移転に際し国の補助金を受ける場合、現在の美術館は解体か売却することが条件です。宮城県美術館は、建設省の公共建築百選にも選ばれ、現在の立地環境はもとより、建物自体にも大きな価値があります。高見のり子議員は、一般質問（9月15日）で、移転せず存続することを求めました。

高見議員「現在の宮城県美術館は、近隣に市博物館や国際センター、東北大学などがある文教地区に立地し、広瀬川や青葉山など豊かな自然に囲まれている。自然と建物が一体となり作り出す空間そのものが文化的価値を高めている。
県は2019年11月、それまでの現地リニューアルの方針を突然、くつがえし、県民会館と宮城県美術館、NPOプラザを集約して宮城野区の仙台医療センター跡地に移転、新築する方針を発表した。移転反対署名は短期間で1万7000筆集まり、県議会でも多数の反対意見が出された。仙台市は市民の声を聞いて、県に対し移転しないで存続するよう伝えるべきだ」
郡和子市長「私のところにも様々な意見が届いており、市民の美術館に寄せる思いを感じている。知事には、多様な意見を踏まえながら検討していただきたい旨、伝えたところだ」

文化・芸術

人が生きていくうえでの糧

一般質問を行う高見のり子議員

コロナ禍で各種イベントが中止となるなか、音楽や演劇など文化芸術活動に携わる人たちは、生活が成り立たず、窮地に追いやられています。高見議員は、支援の強化を求めました。郡市長は「文化芸術の力は、必要不可欠。支援に力を入れる」と答えました。

仙台フィル管弦楽団を支える

高見議員「クラシックのプロオーケストラ、公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団は、定期演奏会の中止などで苦境に立たされている。これまで市の音楽振興に大きな役割を果たしてきた。団員たちを励ます、具体的な支援が必要だ」
文化観光局長「仙台フィルは『楽都』を掲げる本市のシンボル的存在。想定外の苦境に直面しており、状況を聞き取り、しっかりと支えていく」

ホールの照明、音響なども減免を

高見議員「音楽、演劇などは、照明・音響料、移動交通費、運搬費、宿泊費、舞台設営アルバイト代、受付スタッフアルバイト代など多くの費用がかかる。客数を半分以下にして上演すれば確実に赤字だという。ホール使用料は、市の減免があるが、照明・音響などホール使用に欠かせない付帯設備も減免の対象にすべきだ」
文化観光局長「国がイベント開催制限の緩和方針を打ち出したので、今後の動きを注視したい」

補助金システムの新設

高見議員「文化芸術の有志が県内の実演家、創作者、製作者、技術者などの実態調査を行った。損失額が500万円だったとの回答もあった。約4割が個人事業主やフリーランスだ。8月26日には宮城県舞台技術者協会がイベント再開の支援を求める要望書を県と市に提出した。『舞台を支える技術が衰退し、文化が消滅してしまう』と訴えた。一時的な補助金だけでなく、2021年度以降も継続的に使える補助金システムを新設してはどうか」
文化観光局長「支援のあり方を検討する」